

被災者生活支援従事者 との連携に向けた研修

岡山県倉敷市

- 人口※ 473,810 人
- 自治会加入率 60%
- 実施時期 令和 2 年度

※令和 6 年 12 月 10 日時点自治体ホームページ掲載情報

取組むことになったきっかけ

本研修の共同企画者である倉敷市被災者見守り支援室の担当者（保健師）の方と、西日本豪雨災害への被災者支援での連携から、この「研修会」という場づくりの発展につながりました。

取組内容

社会福祉法人岡山県社会福祉協議会は、「災害時福祉支援活動の経験と教訓を“災害後の”平常時福祉支援活動に活かす」をテーマに、平成 30 年 7 月豪雨災害後の被災者・被災地の様子から今後の支援に必要な視点と知識を得るため、令和2年度下半期の研修を実施しました。

特に、生活支援を担う社協職員と保健活動を担う行政保健師との連携が肝要であることから、この 2 者を軸として、子どもに関わる保育士等、住まい確保に関わる建築士、生活ごみや廃棄物処理に関わる行政職員、災害時の保健・医療・福祉の連携や被災地の応援等の支援を促進するマネジメント機能を担う職員が、それぞれの経験を共有し、“被災後の地域支援をともに考える”場を倉敷市と共に企画・実施したものです。

講演内容

- ▽生活再建の第一歩は“かたづけ”を始めること
- ▽平成 30 年 7 月豪雨における災害廃棄物処理からの気づきの共有

参加者：県内の保健師等 35 人



【参加者の感想】

- 処理をスムーズにするために分別が必要なこと、災害経験を活かし平時から備える取組み、住民の生活を守るためにごみは生活に密接した大切なことと理解しました。
- 被災者の視点と心情から地域支援を考えるきっかけとなりました。

自治体の声

会議以外の場では意見交換することが少ない者同士が、学びや気づき、また発災当時のできごとを共有することは非常に有効であり、定期的な開催を行うしくみづくりが必要です。

衣食住の「住」に着目した連携は、被災後の生活再建の中で核となる部分であることに改めて気づかされました。

このようなテーマ性を持った団体同士の連携の場を設けるコーディネーター役の存在が継続性への鍵となると感じます。

